

■長谷川巳之吉 出版事業家。書物の美へのこだわりが“第一書房文化”と讃えられ、“出版一代論”唱えて廃業。

はせがわみのきち 新潟県三島郡出雲崎町で、安部仲吉・モヨの長男に生まれ、長谷川孫市・マトの養子となる。

教科書疑獄・1902＝9歳：

日露戦争始・1904＝11歳：高等小学校1年を修了し、与板銀行出雲崎出張所に勤務。

大逆事件判決1911＝18歳：

第一次大戦始1914＝21歳：田中信子との恋愛が評判となっていづらくなり、東京に脱出、神田猿樂町で同棲生活を始める。
21ヶ条要求・1915＝22歳：明治商業銀行を退職し、京和銀行へ転職。本を読む時間の多い勤め口を求め、
民本主義・・・1916＝23歳：単身、鹿児島湾の山川港に行き、検潮員となるが、帰京し、太陽通信社に入社、雑誌{黒潮}の創刊号から編集に携わった後、東京の化粧品メーカー伊東胡蝶園が同年に設立した出版社玄文社に入社、{新演芸}(主筆岡村柿紅)新家庭}{花形}{詩聖}などの雑誌の編集に携わる。

ベル仁条約・1919＝26歳：出版部長。親鸞全集を懐に感激するなど、周囲には変人に映るなか、
大暴落・・・1920＝27歳：次男文三誕生。
原敬首相暗殺1921＝28歳：養父が死去。野口米次郎「二重国籍者の詩」を手がけ、米次郎のブックレット刊行も続け、
水平社結成・1922＝29歳：玄文社から詩誌{詩聖}を創刊。
関東大震災・1923＝30歳：*続いて{劇と評論}を創刊するも、社主と対立、玄文社を退社して、芝高輪に出版社{第一書房}を設立。スポンサーに日銀理事夫人たる作家松村みね子が現れ、処女出版は松岡譲「法城を護る人々」で、華々しい宣伝が話題となり、ベストセラーとなる。

護憲三派圧勝1924＝31歳：長女が誕生。大田黒元雄の支援も受けるようになり、
治安維持法・1925＝32歳：*堀口大學の訳詩集「月下の一群」を刊行し、“第一書房文化”の嚆矢となる。
円本時代始・1926＝33歳：増田篤夫編「三富朽葉詩集」。「小泉八雲全集」刊行開始、経営の柱の一つになって行く。
金融恐慌・・・1927＝34歳：豪華版「西條八十詩集」。「近代劇全集」の刊行開始し、豪華本の元祖としての地位確立したが、
共産党事件・1928＝35歳：「萩原朔太郎詩集」。(PANTHEON)創刊。芝高輪から麹町一番町に移転。岩佐又兵衛の傑作「山中常盤」に出会い、即座に購入、海外流出を未然に防ぎ、ビッグニュースとなる。

世界恐慌・・・1929＝36歳：春山行夫を編集責任者に{現代の芸術と批評}を創刊。日夏耿之介と堀口大學不和で{PANTHEON}は廃刊。
海軍軍縮条約1930＝37歳：初のオリジナル企画とも言える{今日の詩人叢書}刊行開始するも、
満州事変・・・1931＝38歳：*{セルパン}創刊しヒット。営業的には苦しみ、失敗した「近代劇全集」完結後、ついに路線転換、

国際連盟脱退1933＝40歳：大衆迎合的になって、営業的には最盛期となるが、川端康成とブルースト「スワン家の方」訳文めぐる応酬、
帝人疑獄事件1934＝41歳：岩波茂雄とジョイス「ユリシーズ」翻訳出版をめぐる軋轢を起こし、
芥川直木賞始1935＝42歳：朝鮮文字からだけ成る金素雲編著「諺文朝鮮口伝民謡集」を刊行。西脇順三郎が登場し、最後の火花。
二二六事件・1936＝43歳：*増田篤夫編「大地」(新居格訳)を刊行すると、爆発的売行きとなるなど、躁鬱の状況。
二二六事件・1936＝43歳：パール・バックの「大地」(新居格訳)を刊行すると、爆発的売行きとなるなど、躁鬱の状況。
二二六事件・1936＝43歳：{セルパン}に鶴沼海岸静養日より連載始。文芸家協会「文藝年鑑」発行を引受ける。堀口大學の「シュペルヴィエル詩抄」の出版を拒んだことに表れるように、心は第一書房から離れ、日本伝統美に回帰、

日中戦争始・1937＝44歳：大田黒からの借金も完済。この頃には、企画編集のほとんどを春山行夫に委ねるようになる。
健保+総動員1938＝45歳：大阪朝日主催の北支実業視察団に参加。以降、過去の出版物を戦時体制版として発刊し、莫大の利益、
第二次大戦始1939＝46歳：戦時体制版「日本二千六百年史」も爆発的ベストセラー。鶴沼を終の棲家と定める。
大政翼賛会・1940＝47歳：この年まで「文藝年鑑」発行。日独伊三国軍事同盟締結に先駆け、アドルフ・ヒトラーの「我が闘争」の初版(室伏高信訳)を出版し、ベストセラーとなるが、春山行夫が退社。

日米開戦・・・1941＝48歳：日米開戦後の戦時体制下でも出版し続ける。第一線を退き、奈良・北京に遊ぶ。
創価学会検挙1943＝49歳：鶴沼に北欧風の農家を建築して転居。
年金+総武装1944＝51歳：*21年の間に単行本759点・全集叢書22点・雑誌13種を出版し、なお全盛中であつたが、出版業界の整理統合に際し、“出版一代論”を唱えて{第一書房}を廃業、一切の権利を講談社に譲渡して、隠居。

敗戦・・・1945＝52歳：敗戦直前、北海道の詩人更科源蔵が自宅を訪問。
新憲法公布・1946＝53歳：鶴沼で夏期大学開催、「我が闘争」を刊行したことなどで、公職追放。

新憲法施行・1947＝54歳：この年、次男文三が野口米次郎の娘と結婚。

三大事件・・・1949＝56歳：この年、次男文三が野口米次郎の娘と結婚。
独立回復・1951＝58歳：追放解除。

テレビ放送始・1953＝60歳：インフレに悩まされ、「山中常盤」を救世教箱根美術館に売却。

自衛隊発足・1954＝61歳：鶴沼内で和風住宅に転居。

国連加盟・・・1956＝63歳：日本陶磁協会の雑誌{陶説}に「利休論」を連載し、「陶器随想」を執筆。

イラストマン・1958＝65歳：日本陶磁協会の雑誌{陶説}に「利休論」を連載し、「陶器随想」を執筆。

安保闘争・・・1960＝67歳：

大学紛争始・1965＝72歳：

石油ショック1973＝80歳：長岡市悠久山公園での文学碑除幕式に妻信子と出席後、タクシー車内で咯血し、_没した。

長谷川郁夫「美酒と革囊」、